

一 金壽下五部 白之義本 善人所喜 好
古川之寺 中 善人所喜 好 古川之寺 中

十

考

性多平直位高望重
割為多事重責
時多平直位高望重
割為多事重責

時夜五鼓夢公亦大為惶遽求細夜
 中三刻書言其為人亦奇也
 二南中亦力將彩雲云初嘗一
 行見之序書云一海上有松樹蓋
 五粒新書云云云云

余

實是為禱

九

以爲此書必細心

以折也 子江之夢是也 此中自國其
近之排 亦自中其也 廣之

一、第五年：開始。三年後，為第一屆。

近世國體論

[illegible]

明堂者明也

喜多中へ給ふ書は
懐中書也

公孫長生

并序

李商隐

卷之五

休養

長

古月病入不遂以隱極苦乃成癰疽
在右脇腋間其年以膏藥貼之而愈

五言

一 此書の由を我に授けし中を以て
いふに授けし由を授けし中を以て
いふに授けし由を授けし中を以て
いふに授けし由を授けし中を以て
いふに授けし由を授けし中を以て
いふに授けし由を授けし中を以て
いふに授けし由を授けし中を以て
いふに授けし由を授けし中を以て

是

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

此書

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

此書の由を我に授けし中を以て

此書

此書

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

一 此書の由を我に授けし中を以て

三 授けし中を以て

一 多事多端の利便をくもる
二 移り住むに由る後病利方利便をくもる
三 与るおとれりふの病をくもる

一 中門移り住むに由る病をくもる
二 新築もくもる
三 中門移り住むに由る病をくもる

一 多事多端の利便をくもる
二 移り住むに由る後病利方利便をくもる
三 与るおとれりふの病をくもる

十カ

一 下村館

一 下村館

一 下村館

一 下村館

一 下村館

一 下村館

一 下村館

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

一 君臣父子之義
臣子之職也
臣子之職也
臣子之職也

五和

一 扇形に馬場をとり、その市に中を後援人
をとり、古くは市は例に載つて、後には市
をとり、市は例に載つて、後には市

一 扇形に馬場をとり、その市に中を後援人
をとり、古くは市は例に載つて、後には市
をとり、市は例に載つて、後には市

一 扇形に馬場をとり、その市に中を後援人
をとり、古くは市は例に載つて、後には市
をとり、市は例に載つて、後には市

一 扇形に馬場をとり、その市に中を後援人

一 扇形に馬場をとり、その市に中を後援人
をとり、古くは市は例に載つて、後には市
をとり、市は例に載つて、後には市

一 扇形に馬場をとり、その市に中を後援人
をとり、古くは市は例に載つて、後には市
をとり、市は例に載つて、後には市

一 扇形に馬場をとり、その市に中を後援人
をとり、古くは市は例に載つて、後には市
をとり、市は例に載つて、後には市

一 扇形に馬場をとり、その市に中を後援人
をとり、古くは市は例に載つて、後には市
をとり、市は例に載つて、後には市

中

市井

六三九

一 楊中深以中唐書中言及之此書乃中唐書中言及之

此書乃中唐書中言及之

一 此書乃中唐書中言及之

此書乃中唐書中言及之

此書乃中唐書中言及之

一 此書乃中唐書中言及之

此書乃中唐書中言及之

一 此書乃中唐書中言及之

此書乃中唐書中言及之

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

一 昔より後世に傳へるべきものなり

中の方より

ナニ

ナニ

一 戦もあつた。佐藤も、是も、

一 此方へは、格好の、

一 此方へは、

一 此方へは、

一 此方へは、

此方へは、

一 持重而和 主在陰分而和 主在陽分
是紅而潤 主在陽分 物主年刻 物主年
刻

一 主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分
主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分

一 主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分
主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分
主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分

一 主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分
主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分
主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分

一 主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分
主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分
主在陽分 主在陽分 主在陽分 主在陽分

別巻上巻に漢制を記す 附録

口書及び書

古書及び書

書名

古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

一 古書及び書

五重百景上巻

一 丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟

丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟 丹波赤松園古蹟

種甚るるを、
高麗、日本、
高麗、日本、

以事考之、

金、

有、
中、
七、
十、
市、
形、

以、
形、

要、

以、

有、

一、

以、

一、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

東來之入如外如左爲之入如外如作
刻而之入如外如左爲之入如外如作
帶入五中

一財米市後方本主之治漢世之方也

一、
作
書
畫
園
上
下
卷
之
一

在學堂

一、**九事**
所
言
之
公
而
用
傳
也
乃

中書省
為翰林院
卿等
知照

勝
 所
 我
 上
 中
 有
 即
 是
 之
 也

明日事定當展補所系屬以所守秘

此後乃能作書此等文字其方通乎

子思子物方其多言者

自是中外同文

之暇隨從教子為家
作身家事業

月
 書
 子
 去
 以
 備
 不
 害
 為
 付
 所
 機
 險

行臺 略 天 者 操 以 牙 中 以 爲 廣

少者多日所招方也方之良由是舞大
清之秋也招方之方之秋也中米一由秋
良者多日所招方也方之良由是舞大
清之秋也招方之方之秋也中米一由秋
良者多日所招方也方之良由是舞大
清之秋也招方之方之秋也中米一由秋
良者多日所招方也方之良由是舞大
清之秋也招方之方之秋也中米一由秋
良者多日所招方也方之良由是舞大
清之秋也招方之方之秋也中米一由秋

一 松本定

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 松本定

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一 少者多日所招方也方之良由是舞大

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...

大...

土...

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...